

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 1日

事業所名 児童支援センターしろやま

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			受け入れ人数によっては手狭になってしまうこともあるため、園外での活動等取り入れながら窮屈にならないようにしていく必要があります。
	②	職員の配置数は適切である	○			運営基準上の配置数は満たしていますが、現場での支援度等に対しての人員配置が出来ていない部分があります。勤務状況などを見直し、利用者の皆様が安心して過ごせる環境作りに取り組んでいきます。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		歩行に不安のある利用者に関してはエレベーターや手すりを設置しています。活動室内の安全面にも配慮し、月一回設備点検を実施しています。	
業務改善	④	業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		チーフクラスを中心に事業所の課題等会議をする機会を作っています。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1回、保護者向けのアンケートを実施しています。アンケートを参考に、業務改善について把握し、改善に向けた取り組みを行っています。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		年度ごとにホームページにて公開しています。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者評価を受審し、結果を改善に繋げています。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月事業所内研修を実施しています。外部での研修会に参加し、情報を共有しています。	外部での研修へは全体での参加が難しいため、学んだことを全体にフィードバックできるよう全体に周知する力をつけていく必要があります。
適切か	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		検討会議を行い、専門職の意見も取り入れながら計画を作成しています。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		専門職と連携しながらツールを使用しています。	専門職の助言が必要になっている場面が多いため、今後は職員が確実にツールを使用できるよう理解を深めていく必要があります。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		月ごとに担当が立案し、必要に応じてグループ職員で内容を検討しています。	

は 支 援 の 提 供	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節ごとに取り組む活動を検討し、行事等工夫しています。	活動ごとに担当を割り振っているため同一のプログラムでも変化が出るようにしています。今後は月案等目に見える形で利用者や保護者に伝えられるようにしていく必要があります。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			休日等の活動時間が長くなる日は事前の打ち合わせ等が難しく、個々人の課題にあった活動が提供できていない部分もあります。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		可能な限り関係機関や併行先の情報を聞き取り連携して、統一した取り組みが行えるよう努めています。		
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日に流れを確認し、共有できるようにしています。	申し送りを作成していますが、個人レベルでの確認が抜けてしまうことがあるため、確認作業を徹底していく必要があります。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			送迎等があり、全体での振り返りが難しい部分があるため、職員間で振り返りを行ったものを共有するために申し送り等に記載することが必要になっています。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		ケース記録として記載し、グループ全体で利用者個々人の支援議許を確認できるようにしています。		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			本人を交えて保護者とのモニタリングを実施しています。その中で、本人や保護者の意向をうまく聞き出せない場面もあるように感じるため、職員個人の面談時のスキル向上を図っていく必要があります。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせを行っている	○		利用者の皆様が意欲的に取り組めるよう、活動内容を検討しています。	地域との交流といった部分で弱いところがあります。今年度より近隣の大学生ボランティアを受け入れ、交流の機会を作れるよう準備を進めています。	
	適 切 な 支 援 の 提 供	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者がメインで参画していますが、状況に応じて利用者担当職員も参画し、情報共有を行っています。	
		㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			基本的な部分は情報共有ができていますが、下校時間の変更など確認が遅れてしまう部分があるので、学校ごとの行事等の把握が必要です。
		㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアが必要な子どもは現在通われていませんが、かかりつけ医や主治医等を把握し、緊急時は迅速に対応できるよう職員間で情報共有を行っています。	

関係機関や保護者との連携

⑳	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			法人内の事業所とはスムーズに連携が取れていますが、他法人の事業所とは難しい部分があります。相談支援と連携しながら情報共有ができるようにしていく必要があります。
㉑	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		つなぎシートを作成し、情報提供ができるよう準備しています。	
㉒	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		法人内のセンターと連携し、新任職員への研修等実施しています。	
㉓	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	他事業所や地域の方との交流の機会を作り、他者と交流する場面を作っています。	児童クラブ等との関りが無い状態です。地域資源を活用しながら関わりをもつことができるようにしていく必要があります。
㉔	(地域自立支援)協議会などへ積極的に参加している	○		事業所職員が代表して参加し、全体で情報共有できるようにしています。	
㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時に子どもさんの情報のやり取りを行っています。また、面談時に様子を聞き取り支援に活かせるようにしています。	
㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		専門職を交えて面談を実施するなど対応しています。また、家族通所など保護者参加の活動を提供し、関わり方等一緒に確認が出来るようにしています。	トレーニングを実施できる職員がいない為本来のペアレントトレーニングは実施できていません。保護者の話しを個別で聞きながら対応等について一緒に検討している状況です。
㉗	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用契約の際に、運営規定、重要事項説明書の説明を行っています。また、変更があった際は、文書にてお伝えしています。	
㉘	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		個別面談時以外にも相談があれば随時行っています。送迎時の会話や連絡帳の内容についても気になる点は職員間で共有し、ご家族の困り感に気付けるよう努めています。	
㉙	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			年2回程度保護者会を実施していますが、参加人数が少ない状態です。まずは事業所に足を運んでもらえるよう工夫していく必要があります。

保護者への説明責任	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情受付の窓口を設置し、すぐに対応できるようにしています。また、法人広報誌にて苦情内容等報告できるようにしています。	
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月だより、ホームページ等で写真を掲載し、活動状況等が分かるようにしています。	
	③⑤	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いについてはマニュアルに沿って保護者に承諾を得てから使用するなど配慮しています。	
	③⑥	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		主に写真・絵カードや五十音表などを活用し、やり取りができるようにしています。また、学校等で活用しているジェスチャーなどを把握し、共通したやり取りができるように配慮しています。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域の方を事業所に招き、交流会を年一回実施しています。	
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			契約時に保護者へ設置場所等説明は行っていますが、周知されているか確認が出来ていない状態です。面談等来所時に再度周知していく必要があります。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回消防職員立ち合いの避難訓練を実施しています。また、火災、風水害や地震、不審者対策訓練等も実施しています。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部研修や法人内研修に参加しています。また、法人内に人権擁護委員会を設置し、委員会を中心に「人権侵害防止チェックリスト」を活用し権利擁護に努めています。	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束は行っていませんが、やむを得ず身体拘束を行う際のマニュアルを整備し、適切に対応するための体制を整えています。	

④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者への聞き取りを実施し、必要に応じて指示書を提出していただいています。	
④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有してる	○		ヒヤリハット報告書を作成し、事例があった場合は、朝礼や回覧等で全職員への周知を行っています。また、半年ごとに集計を行い、行動分析を行っています。	

# 保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 2年 2月 1日

事業所名 児童支援センターしろやま

保護者等数（児童数）41回収数 29割合 70%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	○				・その日にもよると思うが適切かどうかわかりにくい。	職員数については必要人員数を満たす人数を確実に配置しておりますが、職員のスキル不足等で不安を感じている部分もあるかと思えます。既存の職員のスキルアップを図り、保護者の皆様が安心して子どもさんを預けていただける環境を作ってまいります。
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	○					
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※1が作成されているか	○					
	⑤	活動プログラム※2が固定化しないよう工夫されているか	○					
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○				・必要性を感じない ・今まで交流会があったのか分からない 未記入4名	現状交流が出ていない状態です。今年度近隣の大学等にボランティアを募り、交流を行うことを計画しております。
保護者	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○					
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	○					
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	○					
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	○				・なかなか参加できずすみません 未記入2名	保護者会については、家族通所も含め年4回実施予定ですが、早めに通達し、保護者の皆様が参加しやすいよう準備してまいります。

への説明等	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				未記入2名	
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	○					
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	○					
	⑭	個人情報に十分注意しているか	○					
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	○				・よくわからない 未記入3名	事務所前にマニュアル等設置しておりますが、まだ周知が足りていないようです。面談等保護者の皆様が足を運んでいただいた際に、個別でお伝えしていけるようにしていきます。
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	○				・よくわからない 未記入2名	訓練については年2回消防立ち合いの避難訓練を実施しております。また、各月の月案にも記載しておりますので、ご確認いただければと思います。
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	○					
	⑱	事業所の支援に満足しているか	○				・公共施設や公園など施設外活動が少ない ・支援については満足している ・本人の良いことも悪いことも知らせてもらえると家でも教えていけるので嬉しいです	月1回施設外活動等の体験活動をプログラムに組み込んであります。また、今年度より近隣の公園にて身体を動かす機会を作れるよう準備しております。送迎時や連絡帳を通して子どもさんの状況をお伝えできるよう、職員間で連携してまいります。

- ※1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。
- ※2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がいの特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されている。